



国立国会図書館 タイトル『写経社集』 請求記号 京乙-333

ガラス使用

鳥經社集

全



国立国会図書館 タイトル『写經社集』 請求記号 京乙-333

ガラス使用



洛東芭蕉菴再興記

市中菴記

大正  
1. 9. 24  
購求



四明山下乃西菊一葉寺村に禪房あり  
金福寺といふ土人呼して芭蕉菴也  
呼階あり翠微に入ると二十歩  
一塊の丘あり是をうらもて成庵乃  
遺蹟しとすもとより閑寂なほの代  
にして緑苔や、百年の人迹をくたむ  
といへり出管など一がらす茶煙を



かきつちし水リやとすう樹を老  
多睡してきまへに懐古の情はたけ  
るやと長安名利の境を歌もといへ  
ともいふに俗をきこいともいしもある  
難火の夕に誰をもたそ推牧乃路門を  
光るれう豆腐賣る小ぢもさうく酒次  
沽ふ肆も遠きたあふされと詠入の字も  
相伝ましく半日る困をも貪るまじうも  
よく飢をさすくもさげも自在なほをし

世にありし老老るさのみさうもく  
ものいりしとれと書きたのさくや  
墨の色もたたく年月流去水も  
あつらひらたはるさると無功德  
宗凡さう猛く不立字乃見解まね  
いらいさう佛経聖典もすく  
いらいさうののたかくさびるさ  
いらいさう経漢のよめいたるに  
乃唐いらいさう紙魚乃やうと  
かうひに

も舞い入るるにさしとねしすも  
しやうの追ひ居くもあつたる勝地に  
うたはしむるるのうたをさしめぬく  
しらすとてんこと罪人なる海に侍れそ  
やそ回き入るるをさしめぬく  
一軒屋を再興してしらすの月を  
くさしとてん事さしめぬく  
會して翁入るる月を侍らしめぬく  
發起入るる翁の自を養道にさしめぬく

麻のたもとに暁天乃霞をさしめぬく  
山越して湖水一望するに杜甫の皆を  
決<sup>サキ</sup>はぬに幸いなる松の朧たよに一世の  
あ境を抱めぬく都徑徊の  
たよもかれをさしめぬく  
あけたやふを枯叶をさしめぬく  
たよもかれをさしめぬく  
さきから草堂を芭蕉をさしめぬく  
翁の凡敵をさしめぬく



しよまはるしあをうらひさす真言に  
名いふて異なるともたすハ多ク依  
とそきあれとけとらにて業を弱入  
口跡して世に中らぬもあつすすてうん  
更るもの華入るにたれをうらひく  
あまひをたれも是れ祢住信松宗師の曰  
さうやうを我とさういふらせすいぶたれ  
たふんことう入ねたをきつハけしきすに  
入れりてうきとみよしけうすす

押したの比よりさりとなく来りしにや  
草うも重き麦くは女も芭蕉を問ハ  
うかすしとてあつひる古く名くしし  
るも入其れをきつて寝たすいし  
鉄舟といふ大徳の寺に住するひる  
別に一室を此とらに構へ手自雪炊乃  
を負きたのみ客を討てうらまきこり  
たりのも蕉翁入るをさすてハ困らう  
けいあなうとて長機逃禅入郷をうら



とまはれたるをみたりとる其比や  
蕉菴山城の赤ぬに吟りしく清瀧の  
浪に眼裏の莖を洗ひ岩山のやを  
代謝の時と感し或は文山も夏夜に  
蕉風系あ里る収哉と賦し長嘯の古墳  
にさか独りの神なきを御こあるら  
薦を着てたれ人のやちとらめれ  
しりまのふや雀をよめまはれしと松山の  
風流と雀集ひ大日持入篠に杖と受て

通玄子乃大祖父坦菴先生と蕉翁乃  
りうしこのを愛いたまへし師にて  
たりあはとやうされと通玄子の今け奉に  
またらうもたらるるをせらるるが  
なり

安永丙申五月中前二日

平安 夜半真蕪村信記







京乙  
333



国立国会図書館 タイトル『写経社集』 請求記号 京乙-333

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『写経社集』 請求記号 京乙-333

ガラス使用